令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査について(結果のポイント)

令和7年10月17日 教育課程部会 算数・数学ワーキンググループ 参考資料7

調査の概要

【目的】

小学校学習指導要領の次期改訂に資するため、今次改訂の改善事項を中心に、各教科等の目標や内容に照らした児童の学習の実現状況について調査研究を行い、検討の基礎となる客観的データ等を得るとともに、教育課程の基準に係る課題の有無及びその内容等を検証・総括する。

【時期、対象学年及び教科等】

○調査時期:令和5年2月6日(月)から令和5年3月3日(金)

○調査対象:公立小学校 1.170校(義務教育学校前期課程含む) ※全学校の約7.1%、無作為抽出

実施児童数(延べ) 120,378人

〇内容

:各教科で、①今回の改訂の基本方針に関する事項、②各教科等の主な改善事項(今回の改訂で新設された事項、学年及び学校種を超えて移行した事項)、③従来、課題とされている事項の視点に基づくペーパーテスト調査を実施するとともに、一部教科で実技調査を実施。あわせて、児童、教師、学校長を対象とした質問調査を実施。

(教師、学校長については、オンライン形式にて実施。)

- ・ペーパーテスト調査:第3~6学年 国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、家庭、体育(運動領域、保健領域)、外国語(英語)
- ・質問調査(学校)(児童、教師):第2~6学年 生活、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、特別活動、外国語活動
- ・実技調査:第6学年 図画工作、家庭、体育(運動領域)、外国語(英語)

(主なポイント)

各教科のペーパーテスト調査の結果から

- ○「知識・技能」について、<u>事実的な「知識」は一定程度の定着が見られるものもある</u>一方、<u>「知識」の概念としての習得や、習得した「知識」</u> を日常生活に当てはめたり、現実の事象と関連づけて理解することには一部に課題があると考えられる。
- ○「思考力・判断力・表現力等の育成」の観点から、例えば<u>児童が具体的な問いを見いだす点等については、定着が見られるものもある</u>と考えられる一方、目的に応じた課題解決、自分の考えや根拠を明確に説明するといった点については、課題があると考えられる。

生活、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の質問調査の結果から

○質問調査では、<u>学習状況や学校生活等について概ね肯定的な回答が多く見られる</u>が、同様の趣旨の項目において、<u>教師の認</u> <u>識と児童の受け止めに差がある</u>など、課題が一部で見られる。

教育課程全体に係る質問調査

- ○主体的・対話的で深い学びや、資質能力の3つの柱、見方・考え方などの<u>学習指導要領が提唱する基本的な考え方については、現場</u>の教育課程や学習指導の改善等に良い効果を与えたとの回答が多く見られる。
- ○学習指導要領の趣旨実現を妨げる要素としては、多忙化や人員確保、研修時間の確保などの回答が多い。
- ○標準授業時数について、<u>教育課程編成に係る学校の裁量を広げることについては、多くの学校が賛成</u>。年間授業時数を確保した上で、 教科間の授業時数の調整を可能とするような取組を行ってみたいとする学校が多い。

令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査について(ペーパーテスト調査等)

ペーパーテスト調査等の概要

- 調査実施校:小学校 1,170 校 実施児童数 120,378人(延べ数)
 - ※1教科1問当たり、3,000人程度の調査結果を得ることができるよう、調査対象を無作為抽出した。

● データを見るにあたって

- 〇「1. 主な改訂のポイント」「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」「3. 2の成果と 課題を踏まえた改善の方向性」「4. 調査問題例」の4構成と「4」に対応する問題を別紙(問題例)で添付。
- ○「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」中の赤字部分は「相当数の児童ができている」 もの、青字部分は「課題があると考えられる」もので、下線が付されているものは、「4. 調査問題例」及び別紙 において問題例(質問項目例)が示されている。
- ※実技調査については、対象教科(図画工作、家庭、体育(運動領域)、外国語(英語)のペーパーテスト調査を実施する抽出校の中から調査を実施する学校を抽出。(1教科当たり350人程度:10校程度))

令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果について (算数)

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- ○数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資 質・能力を育成することとした。
- ○3つの柱に沿って資質・能力を示した。特に「思考力、判断力、表現力等」 については、内容項目ごとに書き加えた。
- ○第4学年以降に「変化と関係」領域を新設し、伴って変わる二つの数量の関係に関する内容を移行し、割合に関する内容を充実させた。また「データの活用」領域を新設し、統計に関する内容を充実させた。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題

- 「変化と関係」領域について、<u>伴って変わる二つの数量の関係に着目し、式に表すこと</u>は相当数の児童ができているが、<u>伴って変わる二つの数量の関係に着目し、統合的・発展的に考察すること</u>については、一定程度の児童ができているにとどまっている。
- ○「変化と関係」領域について、単に<u>割合を求めること</u>は一定程度の児童ができているが、<u>割合を用いて比べ方を説明すること</u>については課題があると考えられる。
- ○「データの活用」領域について、単に<u>代表値を求めること</u>は相当数の児童ができているが、<u>代表値などを用いて問題の結論について判断すること</u>については課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- ○指導上の改善点
 - ・ I C T などを活用して、児童が働かせた数学的な見方・考え方を共有し、 既習内容との共通点を考え、統合的・発展的に考察する学習を重視することが必要。
 - ・知識及び技能を活用して、理由を説明したり、問題の結論について判断したりする学習活動を重視することが必要。

4. 調査問題例(ペーパーテスト 小学校/算数)

「伴って変わる二つの数量の関係」に関する問題例

(別紙1参照)

- ○今回の学習指導要領では、3つの柱に沿って資質・能力を示した。 特に「思考力、判断力、表現力等」については、内容項目ごとに 書き加えた。
- ○「思考力、判断力、表現力等」の内容のうち、第5学年の「伴って変わる二つの数量の関係」については、
- ①伴って変わる二つの数量の関係に着目し、式に表す問題(思考力、判断力、表現力等)を出題。【通過率 91.4%】
- ②伴って変わる二つの数量の関係に着目し、統合的・発展的に考察する問題(思考力、判断力、表現力等)を出題。

【通過率 64.8%】【通過率 60.8%】

「割合」に関する問題例(別紙2参照)

- ○今回の学習指導要領では、割合に関する内容を充実させた。
- ○割合に関する内容のうち、第4学年の「簡単な場合についての割合」については、
- ①割合を求める問題(知識及び技能)を出題。【通過率 76.1%】
- ②割合を用いて、量の大小を判断した理由を説明する問題(思考力、判断力、表現力等)を出題。【通過率 40.7%】

「統計」に関する問題例 (別紙3参照)

- ○今回の学習指導要領では、統計に関する内容を充実させた。
- ○統計に関する内容のうち、第6学年の代表値の問題については、
 - ①最頻値の意味を理解して、それを求める問題(知識及び技能)を 出題。 【通過率 82.3%】
 - ②データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について適切に判断できるかを問う問題(思考力、判断力、表現力等)を出題。【通過率 49.9%】

「伴って変わる二つの数量の関係」に関する問題例

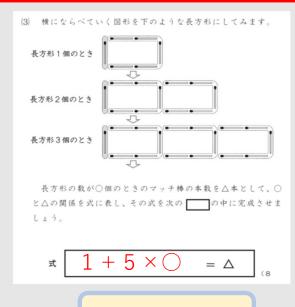
算数 第5学年 伴って変わる二つの数量の関係に関して、数学的な見方・考え方を働かせ、統合的・発展的に考察することに関する問題

○マッチ棒でつくった正方形や長方形を横に並べていったときの、正方形や長方形の数に対するマッチ棒の数を式に表す問題(思考力、判断力、表現力等) このような問題から、数学的な見方・考え方を働かせ、統合的・発展的に考察する能力の育成の状況について測る。

- ・伴って変わる二つの数量の関係に着目して、場面を基に考察して式に表すことが必要。変化している数量について統合的・発展的に捉え考察し、○や△などを用いて式に表す ことが必要。似た場面について、変わっていることに着目して、統合的・発展的に考察し式に表すことが必要。
 - 5 マッチ棒を使って正方形を横にならべた形を作っていきます。 ともきさんは使うマッチ棒の本数を下の図と式で考えました。 ともきさんの求め方 $1 + 3 \times 1 = 4$ 正方形 1 個のとき $1 + 3 \times 2 = 7$ 正方形 2個のとき 正方形3個のとき $1 + 3 \times 3 = 10$ (1) 正方形の数が5個のときのマッチ棒の本数を、ともきさんの 求め方で式に表し、その式を次のの中に書きましょう。 $1 + 3 \times 5$ (2) 正方形の数が○個のときのマッチ棒の本数を△本とします。 ともきさんの求め方について、○と△の関係を式に表します。 その式を次のの中に完成させましょう。 $1 + 3 \times \bigcirc = \triangle$

【通過率 91.4%】

【通過率 64.8%】



【通過率 60.8%】

「割合」に関する問題例

算数 第4学年 簡単な場合について割合に関する問題

- ①ゴムひもの伸びる前と後の長さの関係を捉え、ゴムの伸びる割合を求める問題(知識及び技能)
- ②2種類のゴムひもの伸びる前と後の長さの関係を捉え、伸びる前の長さに応じた伸びた後の長さの大小を判断した理由を説明する問題(思考力、判断力、表現力等)このような問題から、割合についての資質・能力(知識及び技能、思考力、判断力、表現力等)の育成の状況について測る。
- ・二つの数量の関係を捉え、一方の量がもう一方の量の何倍なのかを求めることが必要。二つの数量の関係を捉え求めた割合をもとに、量の大小を判断した理由を説明することが必要。
 - ゴムひもAとゴムひもBがあります。 それぞれのゴムひもを、ある長さで切ったときに、いっぱいまでのばした長さを調べました。

ゴムひもA			ゴムひもB	
のばす前		のばした後	のばす前	のばした後
10 cm	\Rightarrow	30 cm	40 cm ⇒	80 cm
20 cm	\Rightarrow	60 cm	60 cm ⇒	120 cm
30 cm	\Rightarrow	90 cm	80 cm ⇒	160 cm

ゴムひもAとゴムひもBは、それぞれ何倍のびるゴム ひもといえますか。それぞれ の中に書きましょう。

ゴムひもA 3 倍のびる

ゴムひもB 2 倍のびる (7

【通過率 76.1%】

5 ゴムひもAとゴムひもBがあります。 それぞれのゴムひもを、ある長さで切ったとき、いっ



ゴムひもAとゴムひもBをそれぞれ120 cmに切りました。120 cmのゴムひもAと120 cmのゴムひもBの、それぞれをいっぱいまでのばした長さをくらべると、どちらが長いといえますか。次の1から3の中から1つ選び、その番号を□の中に書きましょう。また、その理由を、数や式や言葉を使って□の中に書きましょう。

- 1 120 cmのゴムひもAをいっぱいまでのばした長 さの方が長い
- 2 120 cmのゴムひもBをいっぱいまでのばした長 さの方が長い
- 3 どちらも同じ

番号 1

(6

A は 3 倍伸びるから360cmになり、 理由 B は 2 倍伸びるから240cmになるので A の方が長い。 以下の番号を選んでいる反応率

番号1 61.6%

番号 2 22.9%

番号 3 5.1%

【通過率 40.7%】

「統計」に関する問題例

算数 第6学年 代表値に関する問題

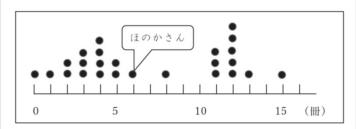
- ①最頻値の意味を理解し、それを求める問題(知識及び技能)
- ②データの特徴や傾向に着目し、代表値などを用いて問題の結論について適切に判断できるかを問う問題(思考力、判断力、表現力等)
- このような問題から、統計についての資質・能力(知識及び技能、思考力、判断力、表現力等)の育成の状況について測る。
- ・最頻値の意味や求め方を理解していることが必要。さらに、中央値の意味や求め方を理解して、データの特徴や傾向に着目し、適切な代表値を用いて判断することが必要。
 - 6 6年1組の図書室で5月に借りた本の冊 数を調べ、下のようにドットブロットに表し ました。



1人あたりの借りた冊数の平均値は7冊でした。

ほのかさんは6冊借りました。

5月に借りた本の冊数 (6年1組 25人)



ほのかさんが、「私は6冊借りていて、平均値の7冊より少ないです。だから、クラスの中では、借りた冊数が少ない方だと思いました。でも、ドットプロットを見たら、クラスの半数以上の13人が、私より借りた冊数が少ないです」といいました。

- (2) ドットプロットを見て、ほのかさんの話のようになった理由 として適切なものを次の1から4の中から1つ選び、その番号 を□の中に書きましょう。
 - 1 ほのかさんは中央値より多く借りているから 49.9%
 - 2 ほのかさんは中央値より少なく借りているから 19.1%
 - 3 ほのかさんは最頻値より多く借りているから 6.9%
 - 4 ほのかさんは最頻値より少なく借りているから 24.1%

番号 1

(1) 上のドットプロットでは、最頻値は何冊ですか。次の の中に書きましょう。

12 # |

【通過率 82.3%】

【通過率 49.9%】